議題②－２

令和７年度
デュッセルドルフ市からのアーティスト受入

●世界へつながる千葉発のアート！

画像

画像

画像

画像

画像

※本資料は公開にあたり、画像を削除しています。

デュッセルドルフ市からのアーティスト受入
事業概要（1）

■目的

千葉県では、姉妹都市であるドイツ・デュッセルドルフ市とアーティストに関する協定を令和６年６月に締結しました。
アーティストが双方の国で滞在制作等を行うことで、その芸術性・創造性を高めるとともに、地域の文化・芸術の発展と活性化に資することを目指しています。

■実施計画　重点項目

「アーティスト受入事業」は、令和７年３月に策定した「千葉県立美術館　実施計画（令和７年度～10年度）」のうち特に重点１「地域の特色を活かしたアートプロジェクト、他分野とアートの融合、世界の潮流を捉えたアート」、重点３「国内外のアーティストとの交流の場の創出」に基づいて取り組んだ事業です。

デュッセルドルフ市からのアーティスト受入
事業概要（2）

■選考

ドイツ・デュッセルドルフ市から千葉県へ提案のあったアーティスト候補３名の中から、
令和７年３月に開催した「デュッセルドルフ市からのアーティスト受入事業に係るアーティスト選考委員会」の選考により、クリストフ・ヴィーデマン氏に決定。

■作家略歴・作品

氏　　名　クリストフ・ヴィーデマン　Christoph Wiedemann

略　　歴　1994年生まれ（満31歳）
ミュンヘン出身、デュッセルドルフ在住
デュッセルドルフ芸術アカデミー修了
ピーター・ピラーに師事
ウィーン美術アカデミーに交換留学
イマン・イッサに師事

表現分野　写真・ドローイング

主な個展　2025 ボン・クンストフェライン（個展）
2024 オースティン・スペース（個展）
他2019年からドイツの5か所以上で作品発表

受 賞 歴　2023 ペーターメルテス奨学金 、2022 NRW銀行芸術賞

画像

画像

デュッセルドルフ市からのアーティスト受入
事業概要（3）

■受入概要

受入期間

令和７年10月22日（水）～12月17日（水）

スケジュール

10月22日（水）　来日

10月27日（月）　アーティスト歓迎会

10月23日（木）～12月２日（日）　滞在制作・リサーチ・交流

12月3日（水）～14日（日）成果展（千葉県立美術館　第６展示室）

12月3日（水）　成果展オープニングイベント（アーティストトーク、レセプション）

12月7日（日）　ワークショップ

12月17日（水）　帰国

デュッセルドルフ市からのアーティスト受入
アーティスト歓迎会

■日時、会場

10月27日（月）15時～17時、千葉県立美術館　休憩室

■内容

アーティスト歓迎会を開催することで、千葉県ゆかりのアーティスト及びアート関係者との交流の機会を創出し、受入アーティスト自身のリサーチ及び制作活動につながる場を設けることを目的に実施した。

■主な出席者

アーティストのリサーチ及び制作に直接関係する可能性がある組織・人物　44名程度

（アーティスト本人が訪問を希望している組織・人物／近隣レジデンス施設／アート及びレジデンス関係者／県ゆかりのアーティスト など）

画像

画像

デュッセルドルフ市からのアーティスト受入
滞在制作・リサーチ・交流

■内容

アーティストが作品を制作するにあたり、参考となる場所や人物を紹介し、案内した。
また、アーティスト本人が調査を希望する場所への交通手段の確保など、コーディネーターと連携してリサーチのサポートを行った。作家が調査・撮影を行った主な場所は以下の通り。

■主なリサーチ・撮影先

- 稲毛　（稲毛海浜公園、千葉市地方卸売市場、稲毛記念館）→調査・撮影
- 幕張　（幕張新都心）→調査・撮影
- 西千葉（千葉国際芸術祭）→調査・鈴木雄介氏との交流
- 茂原→撮影
- 勝浦→撮影
- 都内のギャラリー、博物館、商業施設等 （東京国立博物館、銀座ソニーストア など）→調査・撮影

画像

画像

デュッセルドルフ市からのアーティスト受入
成果展

■日時、会場

12月３日（水）～12月14日（日）、千葉県立美術館　第６展示室

■内容

約１か月半の滞在制作の成果として、美術館内の事務所を撮影した〈Office〉シリーズと、ペットロボットのaiboを撮影した〈Aibo〉シリーズ、計10点の作品を展示した。作家は来日前、ドイツで素朴な視点と、そこに潜む多層的な背景を交差させながら、主に都市空間やそこを行き交う人々について写真やドローイングを通して捉えようと試みてきた。〈Office〉では展覧会が生み出される美術館の事務室に、公私入り混じった各々の痕跡（椅子に掛けられた上着、デスクに貼られた付箋、雑多な資料）が積み重なっている点、そして〈Aibo〉では最新技術を結集したペット型ロボットが「人間とのコミュニケーション」というある種非常にアナログな目的をもって制作されているという点が、それぞれ作家の興味関心を引いた。これらは既に作家が持っていた独自の視点を、都市というテーマから更に発展させたものである。

■入場者数　963名

画像

画像

画像

デュッセルドルフ市からのアーティスト受入
アーティスト・トーク

■日時、会場
12月３日（水）14時～15時、千葉県立美術館　第７展示室

■内容
担当学芸員が聞き手となり、これまでの作品制作や千葉での滞在について、成果展の制作プロセスや美術館のどのような点に興味を持ったのか、具体的なエピソードについてお話しいただいた。

■参加者数
アーティスト・トーク：43名　メディア説明会：４社５名

■参加者の声
・異質な文化と出会ったときに、写真を撮ることで、表面的には見えない構造を可視化させて考えてみたい、というアーティストの思いが分かり、満足しました。
・日頃の自分にはないアーティストの感性や目線（視点）を見る事ができて新鮮だった。
・成果展を今後も続けていただきたいです。
※アンケート自由記述欄より

■メディアからの質問とアーティスト本人の回答について
Q.残りの滞在期間どのように過ごすか。　A.展示で忙しかったため、行けなかった千葉の南の方へ行きたい。
Q.展示サイズをどのように決めているか。A.制作プロセスに近いサイズを選択した。
Q.デュッセルドルフと千葉は似ているところがあるか。A.文化的な施設と工場などの近さが際立っている所。

画像　画像　画像

デュッセルドルフ市からのアーティスト受入
ワークショップ

■日時、会場

12月７日（日）13時～14時30分、千葉県立美術館　第１アトリエ

■内容

参加者自身が撮影し持ち寄った写真をもとに、ヴィーデマン氏とともに語り合う対話型ワークショップ。
被写体に選んだテーマ、そこに込めた思い、写した瞬間の感覚――それらを言葉にし、アーティストと参加者同士で共有、自分自身の“見る”という行為をアーティストとともに考えた。
さらに、ZOZOと連携してワークショップの成果をZOZOcafeで公開した。

■参加者数　11名

■参加者の様子

持ち寄った写真を紹介し、質問し合い、互いのテーマについて予想するという対話の中で、参加者たちは今まで気付かなかった視点を見出すことができていた。途中クリストフさんより「写真を撮る理由は？」「誰のために撮っている？」といった質問に対して、さらに「撮る」という行為について改めて考えていた。参加者の満足度は高く、充実した時間を提供することができた。

画像

画像

画像

デュッセルドルフ市からのアーティスト受入
全体を通して

■アーティストの感想

○短い期間での作品制作は難しかったが、デュッセルドルフとは違う環境での作品制作は、学ぶことが多かった。長期間滞在したことで、都市や建築物の外観だけではなく、表面に見えない構造を可視化するなど、制作の視点が広がった。作品制作活動では、美術館職員の皆様にサポートしていただき感謝している。

■成果

○ 千葉での経験を通して、アーティストがこれまでの視点を更に拡大し、新しい対象にも興味・関心を広げるきっかけとなった。

○海外のアーティストと共に短期間で展示を作り上げるという経験を通して、コミュニケーションの取り方等について担当職員が様々な学びを得た。

○アーティスト歓迎会や成果展オープニングを通じて、県ゆかりのアーティストや県内及び近郊レジデンス関係者、国際交流事業関係者（日独協会、ゲーテ・インスティトゥート東京など）との交流が広がり、美術館を中心とした文化・国際交流の輪が作られた。

■反省

○事前にオンラインやメールで伝えていた情報等について、お互いに十分に伝わっていないことがあった。

○短い期間でアーティスト本人に確認しなければいけない事項が想定以上に多く、アーティストへの連絡が過密になってしまった。

○チラシ・案内状の送付を通して企業への周知を行ったが、オープニングイベント及び成果展への企業の参加が芳しくなかった。

■改善点

○受入アーティストが確定してすぐの段階で、滞在制作に関するアーティストの意向を行き違いの無いようにしっかりと確認し、それを踏まえて館の具体的な計画・意向を確定する。

○次年度以降は企業に対してより能動的に事業の周知を図っていく。